

編集後記

早いもので、『眞實心』も第十集を数えることになった。創刊以来、年々増頁を重ね、今や二百ページを超す冊子となった。この十年の本学の変遷を象徴するかのようである。

青年期の延長ということが言われて久しいが、今年度の宗教講座では、短大・大学での日々を、何を求めて、どのように生きるのか、ということに力点が置かれていた感がある。

振り返ってみれば、この十年は日本が経済的にも安定し、それにつれて情報産業などのかつては考えられなかったような業種が、急成長を遂げた時代である。それにつれて学生生活も豊かになる一方で、氾濫する情報に振り回されて、地に足がつかなくなり、目先のことで汲々として身をさいなむような青年時代が訪れてきたのではないだろうか。

ワープロが常識となり、コンピュータが人間を管理するようになったといっても、無始以来続けられている基本的な人間の営み、すなわち、食べて、働いて、寝るといった有様は、いつの世においても変わらうはずがない。

浮き足立った我々の生活を、今一度原点に引きもどすために、この『真実心』を熟読されることを熱望する次第である。

(編集委員記)

一九八九年三月一日発行

眞 実 心 第十集 非売品

発行所 光華女子短期大学

光華女子短期大学

〒615 京都市右京区西京極葛野町三八番地

電話〇七五・三二二・一七八三(代)

印刷 (株)吉川印刷工業所

〒601 京都市南区吉祥院遺登中町四五―一

電話〇七五・六九一・八一八六(代)